再発見・牛久 第八話

牛久市文化財保護審議委員　栗原 功

小川（芋銭）家系譜①

佐々木・木村・小川

佐々木・木村・小川家系譜

佐々木・木村・小川家太祖は皇族賜姓（賜苗）の宇多源氏
―源氏・平氏の由来―

源雅信（920年～993年）は、平安時代初期の第59代宇多天皇（在位887年～897年）の第8皇子敦実親王の第一子で、皇族賜姓（賜苗）によって「源」の姓（苗字）を賜り、臣籍（人民）にくだった。雅信の系統は宇多源氏と称され、この系統から出た佐々木家は、近江・長門・石見・淡路・阿波・土佐・越後・伊予・備前・出雲・隠岐の国々に蟠踞して大族になった。近江の佐々木宗家からは木村家が数家分かれ、その中の一家が後世小川を名乗り、芋銭はこの系統の末裔にあたる。

皇族賜姓（賜苗）は天皇家の経済負担を軽減するため、平安時代初期に在位（809年～823年）した第52代嵯峨天皇が最初に断行した。嵯峨天皇は、貴族出でない母より出生した男子を皇族から切り離し、「源（漢籍『魏書』にある故例にちなんだ）」の姓（苗字）を与えた。皇族には姓（苗字）がなかったので天皇が姓を与えて臣民（人民）にくだらせたのであった。これを皇族賜姓（賜苗）といった。以後、天皇が皇子に源の姓（苗字）を与えて臣籍にくだったのは、仁明（第54代）源氏、文徳（第55代）源氏、清和（第56代）源氏（この系統からは頼朝が出ている）、陽成（第57代）源氏、光孝（第58代）源氏、宇多（第59代）源氏、醍醐（第60代）源氏、村上（第62代）源氏、冷泉（第63代）源氏、花山（第65代）源氏、三条（第67代）源氏、後三条（第71代）源氏、順徳（第84代）源氏、後嵯峨（第88代）源氏、後深草（第89代）源氏、正親町（第106代）源氏の計17流あった。17流の源氏のうちで大族となって最も栄えたのは頼朝が出た清和源氏である。

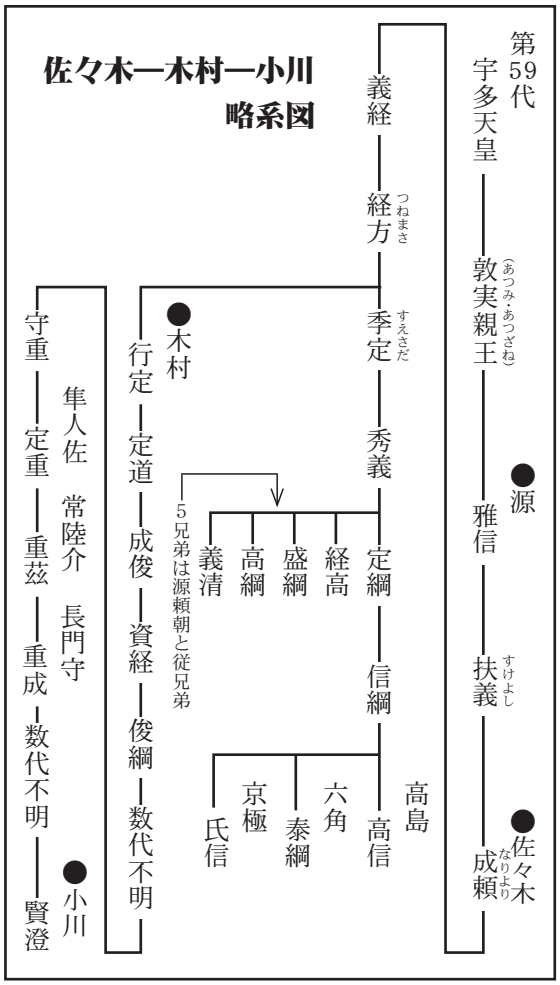
源氏につぐ皇族賜姓に平氏がある。「平」の名は、平安京の本訓タヒラからきていて、第50代桓武天皇（在位781年～806年）から出た桓武平氏が最も大族で、最も栄え、最も有名で、清盛が平氏政権を樹立した。平氏には他に、仁明、文徳、光孝の平氏があり、計4流を数える。

源平両氏以外の皇族賜姓に、第51代平城天皇の孫行平・仲平・業平の在原氏がある。

源雅信の孫成頼が近江国佐々木荘に移住
―佐々木を名乗る―

源雅信の孫成頼が下司（「げす」ともいう）職となって近江国の琵琶湖湖東に広がる蒲生郡佐々木荘（現滋賀県東近江市小脇町）に住み、佐々木を名乗る。

佐々木成頼の孫経方の二男行定が木村に移り住む
―木村を名乗る―

佐々木成頼の孫経方の二男行定が、蒲生郡下の木村（現東近江市）に移り住んで、木村を苗字として名乗る。木村家では、代々、沙沙貴神社（現近江八幡市）の神官をつとめたが、常楽寺（現近江八幡市）へ移り、同地に城を築いて子孫代々居住している。

佐々木―木村―小川 略系図